



地域おこし企業人  
株式会社 FoundingBase  
林 賢司 さん

## 「新しい活力の構築を目指して」

企業人として安平町を訪れ、活動していく中で「若い町民（主に20～40代）を巻き込んだプロジェクトチームをたくさん作り、小さな活動をたくさん生み出していくことが、未来の安平町の大きな活力になるだろう」という思いが強くなりました。

1年目の活動としては、地域住民との繋がり構築を主に行った他、町外から移住してきた地域おこし協力隊員の活動と連携したり、学校再建プロジェクトチームなどにも参加しコミュニティ活用の観点から意見したりしてきました。業務外では安平町復興ボランティアセンターの立ち上げにも関わってきました。

2年目以降の取り組みとしては、町内で起業する人への支援を進めていく一方で、効果的に活用されていない町有地や施設を用いた新規ビジネスを模索していきたいと思っています。また、より主体性を持って地域と関わる人材を増やしていくためにも、役場と連携して、若手の町職員を対象とした研修プログラムの実施も検討しているところです。

私が代表を務める株式会社 FoundingBaseとしては、町の復興及び未来の安平町を創っていくことに貢献するため、行政と町民の皆さん、そして町外から様々な形で関わってくださる方々の力も組み合わせ、新たな安平町の活力を生み出すことに寄与していきたいと考えています。



復興ボランティアとして活動している林さん



地域おこし企業人  
ソフトバンク株式会社  
宮本 直哉 さん

## 「もったいないで終わらせたくない」

企業人として「人が集まる場所にしたい」という理念のもと、町政懇談会や誘致企業会などに参加し、町民や町が抱える課題・思いを積極的に伺った1年。そういった場への出席と並行し「人が集まる場所は生活面での快適さが鍵」となるため、子育て支援「成長ログ」（電子母子手帳）の導入や次世代交通システム（MONET）の導入調整、災害情報をスマホで伝える協定締結にも取り組んだところです。

そんな取り組みをする中で、この町は「条件が良いのに人が増えない、ロケーションが良いのに活かしきれていない、町民・行政の動きが上手く外に発信されていないのでは」と、もったいなく思えてしまうこともありました。多くの人に町の魅力が伝われば、今以上の効果が期待できることもあるでしょう。埋もれてはもったいない、安平町の魅力を輝かせていきたいです。

また2年目以降は、更なる快適さや安心の拡大を図るべく、企業誘致や快適で楽しい子育てができる居住地作り、大きく注目されるようなイベントの誘致など、様々な観点から、人が集まる場所作りを目指したいと思っています。派遣元となるソフトバンク株式会社（以下、SB）としては、企業の人材やノウハウを用いて、高齢者向け事業（徘徊検索など）や人材交流（町からSBへ）ICT活用事業への取り組み（トライアルの実施）を実施を検討しています。



誘致企業会主催の追分高校就業セミナーで話した宮本さん